

南足柄市社協 地域福祉活動計画（平成28～32年度） 令和元年度評価まとめ

基本 目標	重点項目	○学校と地域・社協が連携した小中高生のボランティア活動の創出と福祉教育の推進 ○新たなマンパワー開拓のための専門相談窓口の設置と情報発信の強化 ○住民懇談会や地域診断等の企画実施の支援 ○地域福祉会等の団体同士のコラボレーション活動（サロン活動や世代間交流等）				総 合 評 価			
		基本施策	取組	事業数	委員会評価				
				平成28年度	平成29年度	平成30年度			
1 地 域 活 動 を 支 え る 担 い 手 づ く り	1 地域に目を向け 参加・参画する人の	① 福祉活動を担う次世代の育成	5	B	B	B	○住民の「何かをやりたい」、「参加して楽しい」、「健康を維持したい」という気持ちを大切に して、住民主体の活動を展開するためには、次に掲げる事項を重視する必要がある。 ① ボランティアや地域福祉会等の地域福祉活動を情報発信し、住民から「見える」ようにする。 ② ボランティア活動や地域福祉活動を行う人たちの相互交流を図る。 ③ 地域福祉活動に関心をもち、参加するきっかけとなる仕組みをつくる。 ④ 地域の特性を踏まえ、地域福祉活動を活性化するための議論の場をつくる。 ⑤ 地域ごとにある団体の横の連携を図り、それぞれの団体の活動を活性化する。  今後、社会福祉協議会は、自らの活動が見える化するとともに、ボランティアセンターの見える化に 努め、活動したい方が相談できる窓口を開設し、地域福祉活動の担い手を増やすための施策を積極的 に展開して欲しい。 また、現在、活動されているボランティアの方々には、さらに充実した活動につながるよう、先進 的な実践事例の紹介やステップアップ研修等を実施して欲しい。こうした取り組みの中で、ボラン ティア個人とセンターが情報を共有しながら次の活動につなげていく取り組みを期待したい。  ○次世代の育成のために福祉教育に取り組むことは重要であり、寺子屋事業や小中学校で行っている 体験型の学びの場は有効である。  社会福祉大会において、地域での実践活動をとおして学んだことを発表する機会を増やすとともに、 参加者が新たな学びを得て、より良い活動が地域に浸透していくことを期待したい。 また、障害のある子どもない子どもと一緒に過ごせる機会を持つことは福祉教育につながるため、プログラ ムに留意しつつ、取組を進めてほしい。		
		② 新たなマンパワーの発掘と養成	6	B	B	B			
	2 NPO・ボラン ティア活動等の推進	① ボランティア活動のきっかけづ くりと情報発信の強化	4	C	C	B			
		② 専用の相談窓口設置によるコー ディネート機能の強化	1	C	C	C			
	3 地域の活動基盤 の充実	① 地域の強み課題を地域住民が知 り、共有していくための支援	2	C	C	C			
		② 地域の団体同士のコラボレー ション活動の支援	2	B	B	B			

南足柄市社協 地域福祉活動計画（平成28～32年度） 令和元年度評価まとめ

基本 目標	重点項目	○福祉総合相談窓口の開設 ○個と地域の一体的な支援 ○中学校区エリアでの住民による生活支援活動の組織化とサポート体制の確立 ○住民が身近で利用しやすい地域資源を活用した居場所づくり				総 合 評 価	
		取組	事業数	平成28年度	平成29年度		平成30年度
2  支 援 地 域 が 必 要 な 人 を 支 え	基本施策						
	1 地域における セー フティーネットの構 築	① 福祉総合相談窓口の開設	1	D	D	D	<p>○地域住民の総合相談窓口については、制度上、地域包括支援センターとなっていることから、こうしたセンターと連携しながら社会福祉協議会独自の相談体制を検討する必要がある。</p> <p>今後、重層的な支援体制の整備が求められるなか、権利擁護や生活困窮者に関わる相談など、新たな地域課題に対して、行政と連携した相談機能の構築を期待したい。</p> <p>○「地域の居場所づくり」は重要である。地域内にどのくらい、どのようなサロンが開催され、機能をしているのかを評価しつつ、次の取組につなげて欲しい。</p>
		② 個と地域の一体的な支援	1	B	B	B	
		③ 広域（地区単位）で協働する活動支援	1	A	B	B	
	2 顔の見える関係 づくりの推進	① みんなの居場所づくり	1	C	C	B	
② 地域資源を活用した居場所づくり		1	C	D	D		

南足柄市社協 地域福祉活動計画（平成28～32年度） 令和元年度評価まとめ

基本 目標	重点項目	委員会評価					総合評価
		取組	事業数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
3 適切な 支援に つなげ る体制 づくり	1 福祉サービスの 充実	① 関係機関等の協働活動	7	B	B	B	<p>○社会福祉協議会が実施する様々な事業は、基本理念に則って運営されることが必要であり、それを職員一人ひとりが理解していることが重要である。事業評価については、個別の事業ごとに収支の健全性を確認するとともに、利用者満足度調査の結果や日頃寄せられる利用者の声を真摯に受け止め、職員で共有し、サービスの改善に努めて欲しい。</p> <p>○社会福祉協議会は、地域住民や民間事業者、ボランティア団体等からの意見・要望を聴き、多様化する地域ニーズを的確に把握し、行政、企業等の様々な部門と連携しながら、地域づくりを進めることが期待されている。その期待に応えるためには、社会福祉協議会の認知度を高めるとともに、企業や地域住民からの信頼を得ていくことが大切である。ホームページや広報誌等により事業内容を分かりやすく広報するとともに、企業の社会貢献部門との連携強化を図るなど、新しいチャレンジを期待したい。</p> <p>○広報誌については、市民に親しみやすい紙面の工夫などの改善努力が認められるが、さらに様々な層の市民に情報を届けるためには、常に「市民に必要な情報を提供できているのか」と振り返ることが重要である。情報発信の方法は多岐にわたるため、広報誌やSNSなど、それぞれのメディア特性に応じて使い分け、効果を考えて使用して欲しい。</p> <p>○社会福祉協議会の会員は、組織の根幹をなすものであり、市民の理解を得て財務基盤の強化を図るためにも、事業の実施状況やそれに伴う収支状況などの情報を公表することが必要である。 会費の使い道については、地域福祉会の活性化に向けて積極的な支援を行い、その結果についても、きちんと公表するなど、情報開示の徹底を期待したい。</p> <p>○社会福祉大会では、地域福祉会との連携と協力のもと、地域での福祉活動にスポットを当てることが望ましい。さらに、地元の小中学校と連携して地域での福祉活動を学ぶ機会とすることが有効である。</p>
		② 広域連携	2	B	B	B	
	2 福祉情報の提供 体制の充実	① 広報広聴活動の強化	3	B	B	B	
	3 地域福祉の推進 体制の強化	① 理事会・評議員会の運営体制の 改善	2	C	C	B	
			5	C	C	C	
			6			B	

南足柄市社協 地域福祉活動計画（平成28～32年度） 令和元年度評価まとめ

基本目標	重点項目	委員会評価						総合評価
		取組	事業数	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
4 安全・安心に暮らせる地域づくり	1 地域ぐるみでの防犯・防災の推進	① 災害ボラグループの立上と必要機材の整備	1	D	C	B	<p>○災害ボランティアセンターの運営 通常のボランティアセンターに加え、災害時での運営について検討し、災害ボランティア活用の仕組みを構築するとともに、日頃から、いざという時に備えて訓練する必要がある。</p> <p>○多様化した地域ニーズに対応するため、これまで幅広い福祉サービスを提供してきたが、利用者が少ない事業については、ご利用者のニーズに対応しているのか、行政施策で行うべきものか等、その必要性を検討して欲しい。事業を廃止する場合においては、現在までに培ったノウハウや物品等を他の事業で活かすことを検討して欲しい。</p> <p>○今後、新たに発生する地域ニーズについては、適切に把握し対応することが求められるが、社会福祉協議会が主体となって行うだけでは限界がある。そこで、地域住民の力を借りて地域課題を解決する手法を検討して欲しい。例えば、社会福祉協議会が「地域福祉活動の情報プラットフォーム」を構築し、地域住民がそのプラットフォームの上で様々な情報を入手したり、提供できるようにすれば、住民参加で地域の福祉力を高めることが期待できる。</p> <p>○認知症に関する施策は重要であり、地域ぐるみで対応する必要がある。認知症サポーター養成講座を受けた方々に対して、地域でどのような活動の場を提供することができるのか、関係機関と連携して検討して欲しい。</p>	
		② 災害ボラセンター等、当事者団体との災害事業共催訓練	2	C	B	B		
		③ 地域での見守り、声掛け活動	1	C	C	C		
	2 安心して生活ができる環境整備の推進	① 多様化する地域住民の福祉ニーズへの対応	6	B	B	B		
		② 生活困窮世帯等に対する総合相談支援体制の構築	4	B	B	C		
		③ あんしんセンター事業の推進	4	A	B	B		